

奥津敬一郎先生略歴

- 1926年 横浜に生まれる
1950年 (旧制) 東京文理科大学哲学科卒業
1955年 (旧制) 東京文理科大学大学院哲学専攻 修了
1955年 米国国務省外務研究所 専任講師 日本語・日本文化担当
1962年 国際基督教大学教養学部 専任講師 日本語学・日本語教育担当
1964年 米国コーネル大学大学院 一般言語学専攻に留学
1965年 米国ハワイ大学 客員講師 日本語学・日本語教育担当
1970年 オーストラリア国立大学 客員教授 言語学・日本語学担当
1973年 国際基督教大学 助教授 教授を経て退職
1973年 東京都立大学人文学部国文学専攻 教授 日本語学担当
1976年 韓国啓明大学 客員教授 日本語学担当
1979年～90年 4回にわたり 北京日本学研究中心 (国際交流基金) 客員教授 日本語学担当
1987年 日本女子大学文学部国文学科 教授 日本語学担当
1992年 神田外語大学大学院 言語科学研究科 教授
1999年 (3月) 神田外語大学 退任

【学会役員】

- 国語学会 編集委員 評議員
日本言語学会 常任委員 委員
日本語教育学会 常任理事 理事 評議員

奥津敬一郎先生主要研究業績

【博士論文】

- 1973年 『生成日本文法論』 東京都立大学 人博第8号

【主要著書】

- 1974年 『生成日本文法論』 大修館 (上記学位論文の一部)
1978年 『「ボクハ ウナギダ」の文法ーダとノー』 くろしお出版
1985年 『日・英対照受身文』 NTT電気通信研究所 (共著)
1986年 『いわゆる日本語助詞の研究』 凡人社 (共著)
1990年 『日本語への招待ー文法と語彙ー』 凡人社 (共著) (英語・ハンガリー語への)

翻訳あり)

1996年 『拾遺 日本文法論』 ひつじ書房

【主要編著】

1975年 『新・日本語講座2 日本文法の見えてくる本』 汐文社（共編）

1980年 『国語学大辞典』 東京堂（共編）

【主要論文】

- 1962年 「daとdesu—omosiroi desitaは正しいか—」 『日本語教育』 1
- 1964年 「「の」のいろいろ」 『国語文法講座3』 明治書院
- 1964年 「「ダ」で終わる文のノミナリゼーション—展成文法への試み—」 『国語学』 56
- 1964年 「述部展成則について—展成文法への試み—」 『国語学』 59
- 1965 「「ダ」による述部代用化—展成文法への試み—」 『日本語教育』 6
- 1967 「自動化・他動化および両極化転形—自、他動詞の対応—」 『国語学』 70
- 1967年 「「マデ」「マデニ」「カラ」—順序助詞を中心として—」 『日本語教育』 9
- 「対称関係構造とその転形」 『日本語研究』 国際基督教大学
- 1969年 「数量的表現の文法」 『日本語教育』 14
- 1970年 「引用構造と間接化転形」 『言語研究』 56
- 1971年 「「なくす」と「なくする」」 『講座正しい日本語 5』 明治書院
- 1973年 「英語教育と国語学」 『講座現代英語教育の問題と方法 2』 大修館
- 1974年 「英語の敬語」 『敬語講座 8』 明治書院（共著）
- 1975年 「主語とは何か 無主語文・主語省略文・有主語文をめぐって」 『月刊言語』 4—3
- 1975年 「形式副詞論序説—「タメ」を中心として—」 『人文学報』 104 東京都立大学
- 1975年 「程度の形式副詞」 『都大論究』 12
- 1975年 「英語教育および国語教育に望む」 『英語教育』 23—11
- 1975年 「複合名詞の生成文法」 『国語学』 101
- 1976年 「生成文法と国語学」 『岩波講座 日本語 6』 岩波書店
- 1976年 「補文構造としての変化文—「～ニナル」「～ニスル」—」 『研究報告日本語文法の機能的分析と日本語教育への応用』(文部省科学研究費補助金試験研究)
- 1978年 「「ボクはウナギだ」は非論理的か」 『月刊ことば』 2—5
- 1979年 「海外の日本語教育の現状—韓国 盛況の蔭にある基本的問題—」 『月刊言語』 8—3
- 1979年 「日本語の授受動詞構文—英語・朝鮮語と比較して—」 『人文学報』 132 東京都立大学
- 1980年 「動詞文型の比較」 『日英語比較講座 2』 大修館
- 1980年 「「ダ」の文法<「国語学」「国文法」と「言語学」>」 『月刊言語』 9—2

- 1980年 「ホド一程度の形式副詞一」 『日本語教育』 41
- 1980年 「ダ型文と前提の型一ホドダ文を例として一」 『日本語研究』 3 東京都立大学
- 1981年 「“せしめたしるこ” <学校文法活用論批判>」 『月刊言語』 10-2
- 1981年 「ウナギ文はどこから来たか」 『国語と国文学』 58-5
- 1981年 「移動変化動詞文一いわゆる spray paint hypallage一」 『国語学』 127
- 1982年 「ラジオ・テレビニュースの受身文一視点の立場から一」 『日本語談話構造の研究』 放送文化基金研究報告
- 1982年 「日本語と中国語の比較構文一「ホド」を中心として一」 『都大論究』 19(共著)
- 1982年 「～テモラウとそれに対応する中国語表現一‘請’を中心の一」 『日本語教育』 46(共著)
- 1983年 「数量詞移動再論」 『人文学報』 160 東京都立大学
- 1983年 「続・形式副詞論一目的・理由の形式副詞一」 『現代方言学の課題 第I巻』 明治書院
- 1983年 「何故受身か？一<視点>からのケース・スタディー一」 『国語学』 132
- 1983年 「授受表現の対照研究一日・朝・中・英の比較研究一」 『日本語学』 2-4
- 1983年 「変化動詞文における形容詞移動」 『副用語の研究』 明治書院
- 1983年 「文法現象のゆれ」 『日本語学』 2-8
- 1983年 「不可分離所有と所有者移動一視点の立場から一」 『都大論究』 20
- 1984年 「文の組み立て一SOV構造とくたちば>一」 『講座日本語の表現 2』 筑摩書房
- 1984年 「授受動詞文の構造一日本語・中国語対照研究の試み一」 『金田一春彦博士古希記念論文集第二巻』 三省堂
- 1984年 「不定詞の意味と文法一「ドッチ」について一」 『都大論究』 21
- 1985年 「続・不定詞の文法と意味」 『人文学報』 173 東京都立大学
- 1985年 「不定詞同格構造と不定詞移動」 『都大論究』 22
- 1985年 「日本語と英語の受身文一『坊ちゃん』の分析一」 『日本語学』 4-7
- 1985年 「日・朝・中・英のあいさつことば」 『日本語学』 4-8(共著)
- 1986年 「とりたて詞の分布と意味一『でだけ』と『だけで』一」 『国文目白』 25 日本女子大学
- 1986年 「やりもらい動詞」 『国文学 解釈と鑑賞』 51-1
- 1986年 「日中対照数量表現」 『日本語学』 5-8
- 1987年 「使役と受身の表現」 『国文法講座6』 明治書院
- 1988年 「うなぎ文の世界(上)」 『月刊日本語』 1-7
- 1988年 「うなぎ文の世界(下)」 『月刊日本語』 1-8
- 1988年 「続・何故受身か？一『万葉集』の場合一」 『国文目白』 28 日本女子大学
- 1989年 「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」 『日本語学』 8-8
- 1989年 「『捷解新語』の条件表現(1)「ナラバ」」 『国文目白』 29(共著) 日本女

子大学

- 1990年 「『捷解新語』の条件表現（2）非「ナラバ」—初刊本・改修本・重刊本を比較して—」『国文目白』30（共著）日本女子大学
- 1990年 「日本語教育のための対照研究」『日本語教育』72
- 1991年 「『捷解新語』の条件表現（3）非「ナラバ」」『日本女子大学紀要文学部』40（共著）
- 1992年 「存在文の対照研究（1）」『日本女子大学紀要 文学部』41
- 1992年 「日本語の受身文と視点」『日本語学』11-9
- 1993年 「名詞句からの移動と文法関係」『神田外語大学紀要』5
- 1993年 「日本語の特色？」『日本語論』創刊号
- 1993年 「引用」『国文学—解釈と教材の研究—』88-12
- 1994年 「自然現象を表す機能動詞文と連体・連用の対応（後編）」『言語教育研究』5
神田外語大学
- 1995年 「日朝対照 不定指示詞論 その1」『神田外語大学紀要』7
- 1995年 「日朝対照 不定指示詞論 その2 選択並列表現と「Whか」を中心に」『言語教育研究』6 神田外語大学
- 1995年 「自然現象を表す機能動詞文と連体・連用の対応（前編）」『言語科学研究』創刊号 神田外語大学大学院
- 1995年 「連体即連用？ 第1回 不定指示詞構造」『日本語学』14-12
- 1995年 「連体即連用？ 第2回 不可分離所有と所有者移動」『日本語学』14-13
- 1996年 「連体即連用？ 第3・4回 数量詞移動 その1・2」『日本語学』15-1・2
- 1996年 「連体即連用？ 第5・6・7・8回 機能動詞文 その1・2・3・4」『日本語学』15-3・4・5・6
- 1996年 「連体即連用？ 第9・10・11回 自然現象文 その1・2・3」『日本語学』15-7・8・9
- 1996年 「連体即連用？ 第12・13・14回 変化動詞文 その1・2・3」『日本語学』15-10・11・12
- 1997年 「連体即連用？ 第15・16回 変化動詞文 その4・5」『日本語学』16-1・2
- 1997年 「連体即連用？ 第17・18・19・20・21・22 一般述語文と連体・連用の対応 その1・2・3・4・5・6」『日本語学』16-3・4・5・7・8・9
- 1997年 「連体即連用？ 第23回 総まとめ」『日本語学』16-10
- 1998年 「日朝対照 不定指示詞論 その3 「Whか」とina, inka」『東京大学国語研究室創設100年記念 国語研究論集』汲古書院

以上のほか、書評、文法辞典の項目等